

Title	企業成長と経営戦略 - わが国食品メーカーの事例研究を中心として -
Sub Title	
Author	鈴木章友(Suzuki, Akitomo) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第613号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0613

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

鈴木章友

(株式会社紀文)

主査 小野 桂之介

副査 古川 公成

所属ゼミナール 小野 桂之介 研

青井 倫一

企業成長と経営戦略 —わが国食品メーカーの事例研究を中心として—

本研究の目的は、企業を成長させる要因は何か、成長企業の経営戦略にはどのような特性があるのか、という点について分析を試み、これからの企業の経営戦略を考える場合の示唆を得ることにある。研究の方法としては、事例研究を主体とした。事例研究として取り上げたのは食品企業8社で、分析対象期間は昭和40年より61年までとし、この期間の実質付加価値の変化を基準として、成長時期あるいは停滞時期の区分けを行ない、それぞれの時期を特徴づける企業行動の抽出を行った。企業行動の抽出法としては、各企業の社史またはそれに準じる文献をデータベースとして用い、抽出したデータベースを企業ごとの年表の形に整理するという方法をとった。次に、競争戦略を発見する方法としては2つの方法を採用した。1つは、競争戦略発見マトリックス表というものを作成し、各企業行動を競争要因別に分類・整理し、企業成長の要因の発見に努めた。もう1つは、成長時期あるいは停滞時期の企業行動を因果関係図に整理して分析を行ない、成長あるいは停滞をもたらした要因間の関係を明らかにした。上記のようなアプローチにより研究を進めた結果、これからの企業の経営戦略を考える場合の示唆として、次の3つを得ることができた。①食品メーカーが備えるべき最も基本的な競争要因は、製品力である。②企業が競争力を強化するには、差別化する競争要因を絞ったほうがよい。③競争行動を、より強化するには、広範なロジスティクス段階をカバーした努力が有効である。